

## 週日の説教

金 大烈 神父 2008年10月17日(金)

### 《信仰とは、キリストに希望を置くことです》

信仰とは何でしょうか。いろいろな表現がありますが、その中の一つが今日の第一朗読(エフェソ・11-14)に書かれています。簡単に言いますと、信仰と言うのは「キリストに希望を置くこと」です。私たちはいろいろなことを望みながら生きています。しかし最後の、目的のような希望は、キリストに置くのでなければ、信仰にただ足だけを入れているような状態になるかもしれません。

皆様が持っている希望は何でしょうか。その希望は自分に置いてありますか、それともイエス様においているでしょうか。どちらに置いてあるかによって、大変違う生き方になります。信仰の名ではあっても、希望を自分においた場合には、信仰の味は絶対に味わうことができません。よく分からなくても「あなたに全てを任せます、委ねます」、「私が何を一番望んでいるかも分かりませんが、一番正しい希望をあなたに置けるように導いてください」と祈ればそれが信仰ではないかと思えます。イエス様に希望を置けば、たぶん何が起ころうともゆるがないでしょう。なぜならば、イエス様は何があっても、私のために一番よい道へと導いてくださるだろうという心が生じるからです。しかし希望を自分に置けば、自分の力ではできない何かにぶつかったとき、すぐにがっかりします。「どうすればよいか」、「このような状態ならば私は死んでしまうのではないかと」、いろいろな心配に襲われます。

私たちが持っている信仰の正しい席はキリストであること、希望を置く場所はキリストであることをいつも意識しなければならぬと思いました。

今日の福音(ルカ 12・1-7)に入りましょう。今日の福音には、私たちに悟らせてくださる箇所が二つあります。一つは、どうしても見せたくない恥ずかしいもの、お墓の中まで持って行きたいようなものさへ「必ず現れる」ということです。怖いような話ですね。皆様には、家族にも言わずにお墓まで持って行きたい真実があるでしょうか。絶対言いたくない、人に知られたくない、そういうものを持っているのが私たち人間の心理です。私も、恥ずかしくて、恥ずかしくて、誰にも言いたくないものを持っています。しかし、それは、必ず現れることを今日イエス様はおっしゃいました。全てのことをわかっていらっしゃる神様に隠そうとするのは、愚かな人間の弱さではないかと思えます。皆様、イエス様に対しても隠していることがあるでしょうか。もし、気づかずに隠しているかもしれないと思うならば、隠しているものはないかと振り返ってみる必要があると思えます。それが一番素晴らしく行われるのが赦しの部屋です。そこは、恥を感じても、その恥によって、正しい道を歩むことを妨げられない場所です。赦しの部屋で、真実な、純粋な心で、「私はこういうことのために自分を赦すことができないのですが、お赦し下さい。」と祈る経験があれば、イエス様の慈しみはどのようなものか、すぐに分かるのです。

隠したいものを持ってお墓に入るのは不幸です。人に話す必要はありません。しかし、イエス様が呼びかける時には、必ず話すべきだと思います。これが赦しの大きな恵みではないかと思えます。

もう一つの箇所は、恐れる対象です。「命を奪ってもそれ以上はなにもできない者どもを恐れる必要はない。しかし、あなた方が恐れるべき対象は、あらゆる全ての権威を持っている方を恐れるべきだ」という話でした。皆様が恐れているものは何でしょうか。お金でしょうか？権力を持つものでしょうか？老いることでしょうか？病気になることでしょうか？人の目でしょうか？愛から外れることでしょうか？そうではありません。そういうことを乗り越えようとしても、また乗り越えたとしても、それは一時的なことです。私たちが本当に恐れるべきものは、イエス様の御心です。「キリストに希望を置く」という言葉とつながるのはこれです。「愛しあいなさい」といわれたその言葉をもし守ることができなかつたら、それは恐れるべきことです。どうすれば愛しあうことができるのか、取り組まな

ければなりません。「平安な心を保ちなさい」と言われたのに、もしいつも自分の心の中が不満ばかりで乱れた心ならば、どうすれば平安を保つことができるのか、取り組まなければなりません。それが、私たちに一番必要なことではないでしょうか。

この世の中には人間的に恐れることがたくさんあります。しかし、本当に恐れるべきことは、私が希望を置いているキリストのみ言葉に従っているかどうか、ではないかと思いました。

ありがとうございました。

(ミサの最後に)

祈りとは、どのようにすればよいものなのでしょうか。時間をとってひざまずけばよいのでしょうか。長い時間、集中して祈るのは難しいことです。

基本的に、祈りは二つのことで出来ています。一つは、願うことです。「をしてください」と具体的に願うことです。もう一つは、「あなたの御旨は何でしょうか」と耳を傾けることです。この二つのバランスがとれなければ、祈りはできません。二つのうちどちらが先になるのでしょうか。願う心でしょうか、それとも耳を傾ける心でしょうか。それは場合によって違います。できるだけ早く願わなければならない心が生じたならば、その心に任せてください。その後、「私の願いは正しいでしょうか」と耳を傾けようとするればよいです。「私は今何をしているのか」、「あなたはなぜ黙っているのでしょうか」という気持ちになったときには耳を傾けてください。そして、それでもできない時は、「私は何も聞こえません」と言ってください。返事が必ず来ます。

そして祈りにもいろいろな形があります。ミサのような祈り、御聖体の前で黙想する祈り、自分の家で十字架の前で唱える祈り。一番祈りやすいのは、祈りの会話です。相手が必ずいます。その相手は、キリストです。

朝、道を歩いていて、喧嘩をしている人を見たら、「イエス様、あの人たちはなぜ喧嘩をしているのでしょうか」、「どうすればよいのでしょうか」と、このように話しかけるようにしましょう。「助けを求めて来ている人がいるけれど、なかなか自分では手を出せません。イエス様、どうしたらよいでしょうか。」「これはよくないことなので、治してください。」と話しかけます。妻が嫌な顔をしているとき、「なぜ彼女はあのような顔をしているのでしょうか、どうすればよいのでしょうか」。すぐに「彼女を喜ばせてあげなさい」と答えてくれます。「相手がなぜ怒るのかわかりません」、「それはお前のせいだよ。よく考えてみなさい」と。

このように、生きること自体が祈りにならなければなりません。ですから、24時間、夢の中でも祈る習慣が必要です。そして、それは神様を意識することです。結局、祈りと言うのは、願うこと、耳を傾けることより先に、神様を意識することです。神様を意識できれば、いろいろな誘惑に負けなれないと思います。そして何より必要なことは神様と会話をする時間を作ることです。

ありがとうございました。